

# 阿賀野川 えとこだより

aganogawa E-toko dayori



ここにあるすべてを、  
かけがえのない「宝もん」へ。

「上空から撮影した、オオヒシクイとオニバスの里・水の公園 福島潟と、水の駅『ビュー福島潟』場所：福島潟(新潟市北区など) / 佐藤安男氏撮影  
もくじ ●

## 阿賀流域の今昔をめぐる多様な「学び直し」を目指して

地域は、水俣病問題に苦しんできた熊本県水俣市では、90年代初頭から「もやい直し」(※1)と呼ばれる地域再生の取組が始まり、環境先進都市を目指す様々な事業が市民と協働して展開されてきました。一方、水俣から遅れること約20年、およそ10年ほど前から、新潟の阿賀野川流域でもFM事業(※2)と呼ばれる地域再生の取組がスタートしました。

当初は、水俣地域における水俣病を題材とした文化運動の層の厚さ、「もやい直し」における取組の多彩さに圧倒される中、水俣地域とは異なる「阿賀流域らしき」地域再生を目指そうと取り組まれてきた結果、少しずつ、「新潟版」もやい直し(※3)でも呼ぶべき地域再生のあり方が浮かび上がってきました。それは「新潟水俣病問題はあくまで阿賀流域の過去や現在の「一部」との認識から出発する、様々な地元感情にも配慮した地域再生の進め方です。

現在では、流域の今昔を多様な視点から学び直す機会を通じて、新潟水俣病問題などの光と影を再発見するスタイルへと結実しました。その集大成とも言えるべき取組の一つが、今号お伝えする「阿賀流域再発見・連続ツアー講座」です。

※1水俣病で壊れた地域の人と人の絆、人と自然との関係を再び紡ぎ直すこと。 ※2「阿賀野川えとこだプロジェクト」のこと。詳細はP.8参照。

- 特集1 阿賀流域再発見・連続ツアー講座2019レポート 2
- 〔第1回〕大河によって形成された大地
- 特集2 阿賀の宝もん★発掘レポート(第5回) 4
- ・新潟市北区の「水の公園・福島潟」の取組
- 特集3 阿賀野川エココミュニティを目指す流域再生フォーラム(第8回)開催レポート 6
- 新潟水俣病トピックス
- 平成30年度ロバダン開催レポート
- インフォメーション

## 夏休み子ども工作

# りさいくる 利再来



工作に参加してスタンプを集めよう!

けい品がもらえるよ!

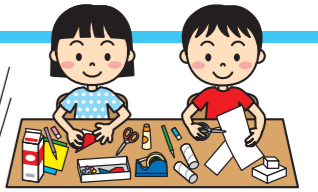
期間 7月24日(水)～8月18日(日)  
時間 毎日・10時～と14時～の2回  
※期間中 7/29、8/5、8/13 は休館日です。  
参加 各回先着20名  
※受付は開始30分前から

ふれあい館にて! 参加無料!



県立環境と人間のふれあい館 - 新潟水俣病資料館 -  
住所 新潟市北区前新田字新々園乙 364-7  
TEL 025-387-1450 / FAX 025-387-1451  
メール fureai@abeam.ocn.ne.jp  
ホームページ URL http://www.fureaikan.net/

## 2019年工作カレンダー



| 日 | 月         | 火         | 水           | 木           | 金        | 土         |
|---|-----------|-----------|-------------|-------------|----------|-----------|
| 7 |           |           | 24 スコープ万華鏡  | 25 ゆらゆらモビール | 26 紙とんぼ  | 27 水のり万華鏡 |
| 月 | 28 コルクで工作 | 29 休館     | 30 鳥の羽しおり   | 31 貝から風鈴    |          |           |
| 8 |           |           |             | 1 スライム      | 2 ロケット棒  | 3 スコープ万華鏡 |
| 月 | 4 貝から風鈴   | 5 休館      | 6 紙とんぼ      | 7 ゆらゆらモビール  | 8 水のり万華鏡 | 9 鳥の羽しおり  |
|   | 10 コルクで工作 | 11 水のり万華鏡 | 12 ゆらゆらモビール | 13 休館       | 14 スライム  | 15 コルクで工作 |
|   | 16 紙とんぼ   | 17 貝から風鈴  | 18 スライム     |             |          |           |

※未就学児は、危険防止のため保護者と一緒に参加してください。また、都合により、内容を変更・中止することがあります。

「みなまた」は終わらない

絵本「みなまたの木」原画展  
2019年8/4(日)～17(土)

～子どもたちに語りつぐ～

「みなまたの木」は、九州・熊本県水俣市の海沿いに立つ一本の「松の木」が、河川から海に流れ出た有機水銀が原因で起きた水俣病に伴う悲劇を回顧する物語。その絵本の原画展を、新潟で開催します。

新潟日報メディアシップ(新潟市中央区 万代3-1-1) 20階 そらのギャラリー  
鑑賞時間(メディアシップ開館時間) ●8時～23時まで  
(※初日(8/4)のみ13時開始、最終日(8/17)のみ16時終了)

主催:新潟水俣病阿賀野患者会 お問い合わせ 025-244-0178  
企画・運営:みなまたの木・プロジェクト(水俣病問題に関心のある学生・市民で構成)

後援:新潟県・新潟市・阿賀野市・五泉市・阿賀町・新潟日报社・朝日新聞新潟総局・読売新聞新潟支局・毎日新聞新潟支局・産経新聞新潟支局・NHK新潟放送局・BSN新潟放送局・NST・TeNYテレビ新潟・UX新潟テレビ21・新潟県写真家協会

## ～子どもたちに語りつぐ～ 絵本「みなまたの木」原画展

入場無料 2019年8/4(日)～17(土)



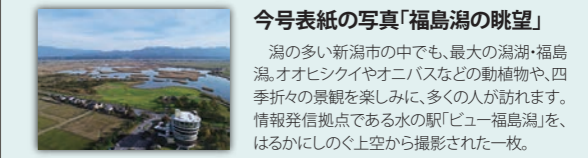
## 「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(略称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」をつむぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ! 憲章(事業理念)  
私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

## 編集後記

第28号はいかがでしたでしょうか?  
今号は、いよいよ今年度から始まった新しい試み「阿賀流域再発見・連続ツアー講座」の特集です。100名超の方からご応募いただき、当日は大盛況でした♪さらに、講座でガイドを務めるなどで協力いただいた「水の駅『ビュー福島潟』」さんを「阿賀の宝もん★発掘レポート」で取材しています☆  
10月発行予定の次号もご期待ください!



阿賀野川えとこだより 第28号  
発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2019年7月31日  
企画編集:一般社団法人あがのかがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)  
TEL.&FAX. 0250-68-5424  
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ! 流域通信  
https://aganogawa.info/

